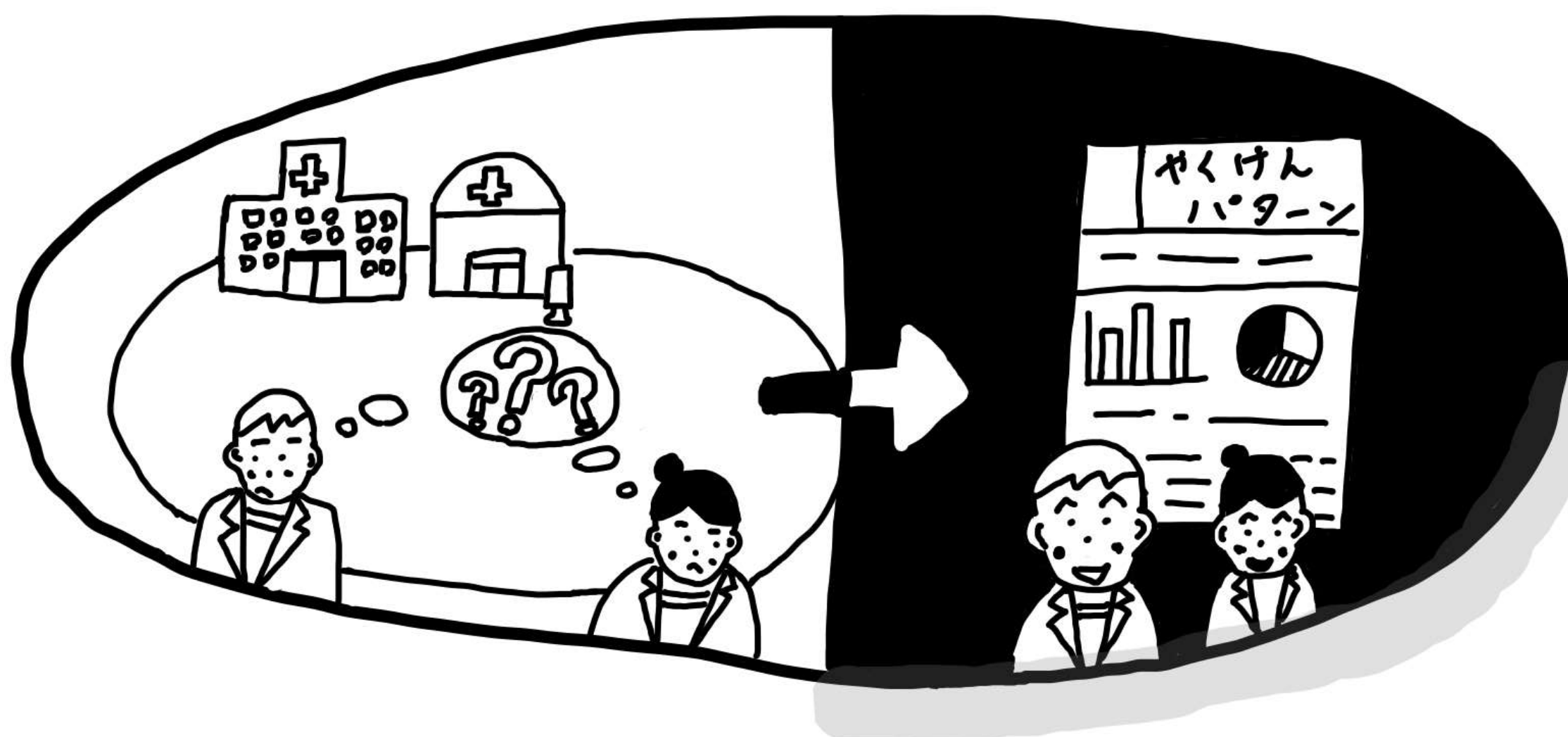


薬剤師の臨床現場における研究活動についての  
パターン・ランゲージ（略称：やくけんパターン）  
Pattern Language for Research Activities in Pharmacists'  
Clinical Practice



名城大学 薬学部 医薬品情報学研究室  
渡邊 慶剛, 酒井隆全, 大津史子

# パターン・ランゲージとは？

パターン・ランゲージは良い実践の秘訣（**実践知**）を共有するための方法であり、成功している事例や、その道の熟練者に繰り返し見られる「パターン」を抽出し、抽象化を経て言語（ランゲージ）化することにより、開発されます。

もともと建築家のクリストファー・アレグザンダーが住民参加のまちづくりのために開発した方法です。アレグザンダーは、町や建物に繰り返し現れる関係性を「パターン」と呼び、それを「ランゲージ」（言語）として共有する方法を考案しました。彼が目指したのは、誰もがデザインのプロセスに参加できる方法でした。町や建物をつくるのは建築家ですが、実際に住み、アレンジしながら育てていくのは住民だからです。

パターン・ランゲージは現在では、様々な分野で開発されておりますが、薬学の分野では作成された実績はなく、臨床現場における研究活動に必要な実践知は一般的に共有されていないと考えました。

そこで、私たちはこのような状況への改善策としてパターン・ランゲージの作成手法に則り、研究活動を継続している病院・薬局薬剤師の方々にインタビューをして、臨床現場で研究するための実践知・コツを聞き出しました。

そして、「**薬剤師の臨床現場における研究活動についてのパターン・ランゲージ（略称：やくけんパターン）**」として29個のパターンにまとめました。大きくA・B・C・Dの4つのカテゴリがあり、さらに8つのグループに分かれております。

「**A.研究への向き合い方(マインドセット)**」では研究に取り組むために必要な心がまえについての実践知をまとめました。

「**B.研究の種の見つけ方・育て方（栽培方法）**」では研究テーマの見つけ方や、結果を形にするための実践知をまとめました。

「**C.研究のための土壌づくり(環境整備)**」では研究を行うための環境づくりについての実践知をまとめました。

「**D.研究成果のアウトプット（開花）**」では研究成果を発表するための実践知をまとめました。

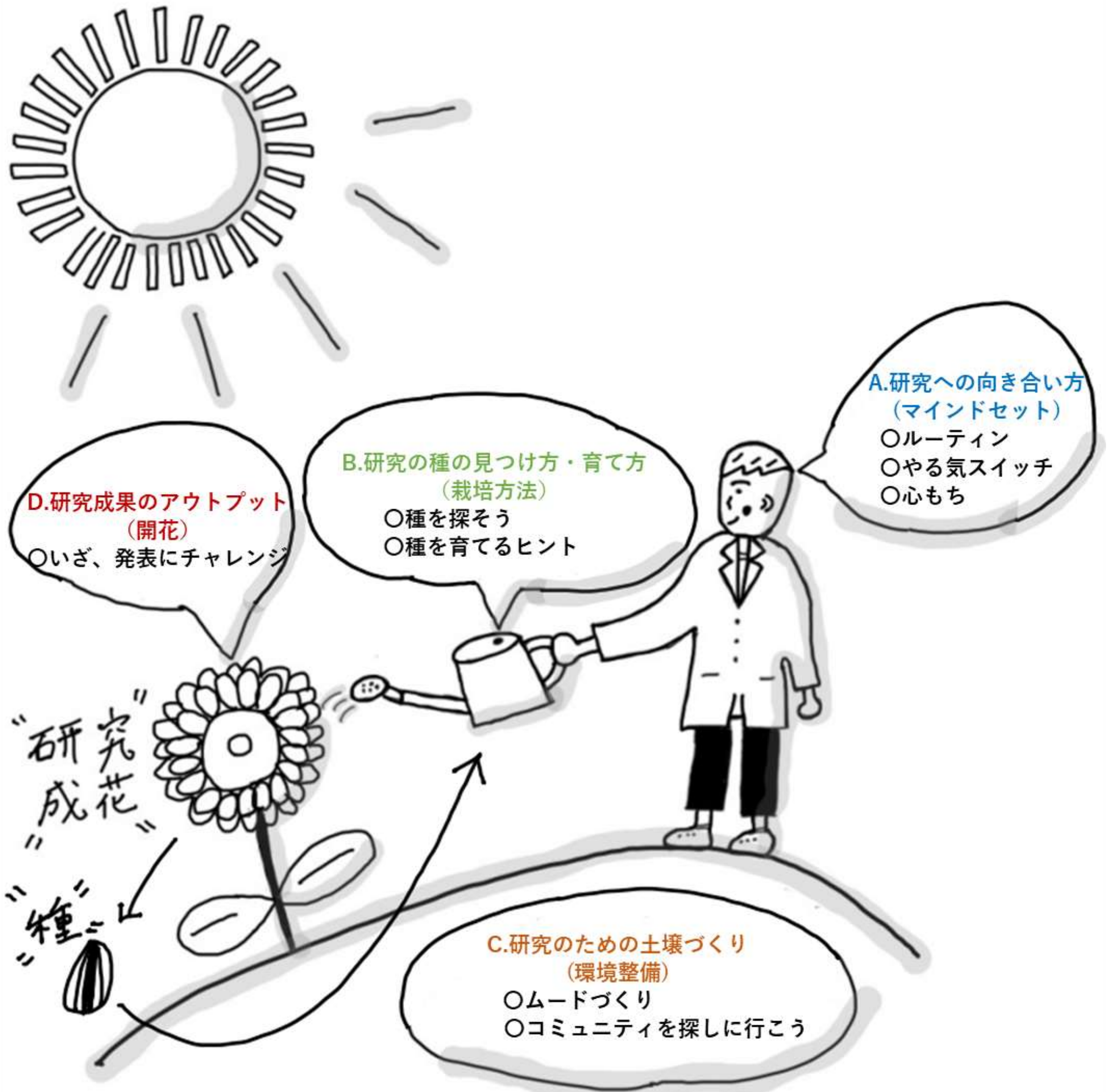
開花した花からは、種が生まれます。そして、「**B.研究の種の見つけ方・育て方（栽培方法）**」に戻り、サイクルを回して、継続していきます。

どのパターンから選択して読んでいただいてもかまいません。全てのパターンのなかで自分や職場の現状にあったパターンを選んで実践していただくのも良いと思います。

また、複数のパターンを組み合わせることで、効果はさらに高まると考えられます。

すべてのパターンのなかから、自分にとって必要だと思えるパターンを選択して、ぜひ実践してみてください。

# 【やくけんパターン全体像】



# やくけんパターンの活用例

## 【個人において】

- ・ 「やくけんパターン」を読み物として使用し、研究についてのコツを学ぶ（初めて研究を行う人向け）
- ・ これまでの研究経験の振り返りのツールとして使用する（経験者向け）
- ・ 薬剤師の知り合いに共有して、研究と一緒に始めるきっかけにする（研究仲間がほしい人向け）

## 【所属施設において】

- ・ 職場全体（先輩・同期・後輩の薬剤師、他職種）で共有して読んでみる（研究活動を行う空気を職場につくりたい人向け）
- ・ 後輩に読んでもらい、研究をはじめめるきっかけをつくる（指導者向け）

## 【研修会やコミュニティにおいて】

- ・ 「やくけんパターン」を使って研修会やワークショップを開く（企画者向け）
- ・ 参加者同士で「やくけんパターン」を読んで、内容に関するおたがいの経験談を話す  
⇒他の人からの経験談から研究のコツを学ぶことができる（経験者向け）
- ・ 「やくけんパターン」を話題のきっかけにして、未経験の人と経験者が対話する  
⇒より実践的・具体的なコツを経験者から聞くことができる（あらゆる人向け）

使っていただく皆さんのアイデアで自由に活用してください！  
使用方法や使った感想などを教えていただけると幸いです。

# 【パターン名 一覧】

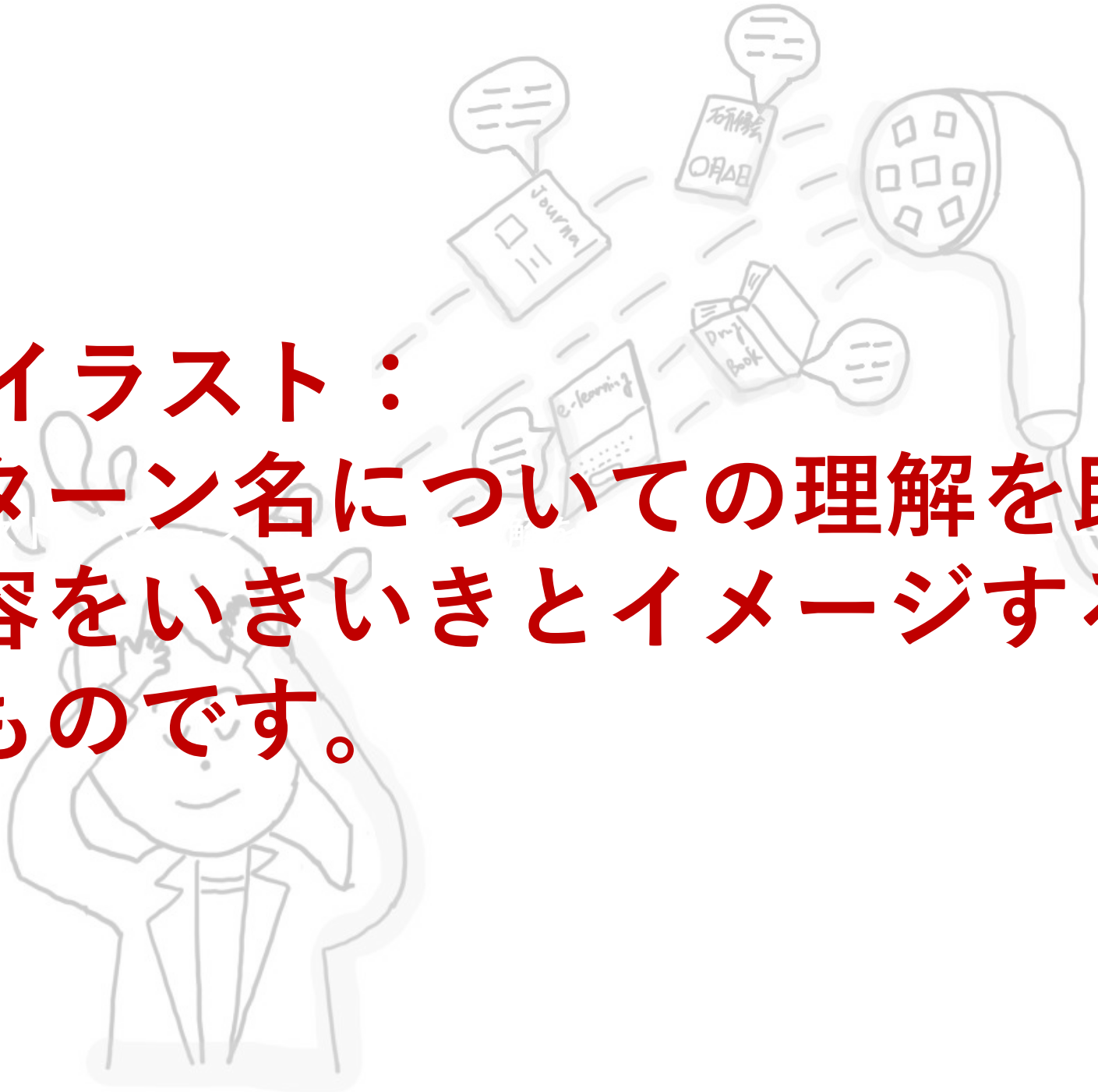
カテゴリ	グループ	パターン
A.研究への向き合い方 (マインドセット)	ルーティン	A1 情報のシャワーを浴びる
		A2 メモ魔になる
		A3 「あれ？」 「なぜ？」 と思ったら即調査
		A4 研究活動の減感作
	やる気スイッチ	A5 学会に参加することから
		A6 認定取得を第一歩に
		A7 逆エゴサーチ
		A8 少し背伸びする
	心もち	A9 好きこそものの上手なれ
		A10 トライ&エラーの積み重ね
B.研究の種の見つけ方 ・育て方 (栽培方法)	種を探そう	B1 常に患者に立ち戻る
		B2 プロフェッショナルとたくさん話す
		B3 業務の見える化
		B4 トrendを当てはめる
	種を育てるヒント	B5 「なぜ？」を「形」に変える
		B6 型を知る
		B7 逆向き設計
C.研究のための 土壌づくり (環境整備)	ムードづくり	C1 相談できる環境づくり
		C2 仲間に声をかける
		C3 感謝とフィードバック
		C4 他者への指導は先行投資
		C5 自分の言葉にしてもらう
	コミュニティを探しにいこう	C6 感想を話せば、もうお友達
		C7 母港（母校）をつくる
		C8 ローカルネットワークに飛び込む
		C9 全国規模でコミュニティ探し
D.研究成果の アウトプット (開花)	いざ、発表にチャレンジ	D1 小さな発表機会にトライ
		D2 まずは症例発表
		D3 ボールは自分から投げる

# やくけんパターンの読み方

①パターン番号：A1-10、B1-7、C1-9、D1-3の通し番号がついています。読む順番は番号が小さいものからでも、気になるものからでもかまいません。

②パターン名：この名前はこのパターンの考え方全体を示すタイトルでもあり、「コツの名前」にあたるものです。

③イラスト：  
パターン名についての理解を助け、内容をいきいきとイメージするためのものです。



④状況（Context）：そのパターンが生きてくる状況。この状況に当てはまる時は⑤「問題」が後に起こる、もしくは現時点で起きている可能性がある。

## ▼その状況において

⑤問題（Problem）：④「状況」の下で起こりがちな問題・困りごとを記載している。「問題」に当てはまる場合は、⑥の「解決」を参考にすれば、改善することができる。

## ▼そこで

⑥解決（Solution）：⑤「問題」を解消するための考え方や行動のコツを抽象的に記載している。

# A1 情報のシャワーを浴びる



日々、薬剤師業務を行っている。

## ▼その状況において

薬剤や疾患、医療制度などの新しい情報に触れていないと、業務のなかで問題点に気づけないことがある。

## ▼そこで

新しい情報に触れる環境を自分の周りにつくり、常に知識のアップデートをしよう。

## A2 メモ魔になる



薬剤師業務をしていて「あれ？」「なぜ？」  
と思うこと・感じることもある。

### ▼その状況において

感じたその場でメモしないと内容を忘れてしまったり、その時の気持ちを思い出せなくなる。

### ▼そこで

「なぜ？」と感じたことは新鮮なうちにメモやカルテに書きとめ、あとで振り返るクセをつけよう。



## A3 「あれ？」 「なぜ？」 と思ったら、即調査



薬剤師業務をしていて「あれ？」 「なぜ？」  
と思うこと・感じることもある。

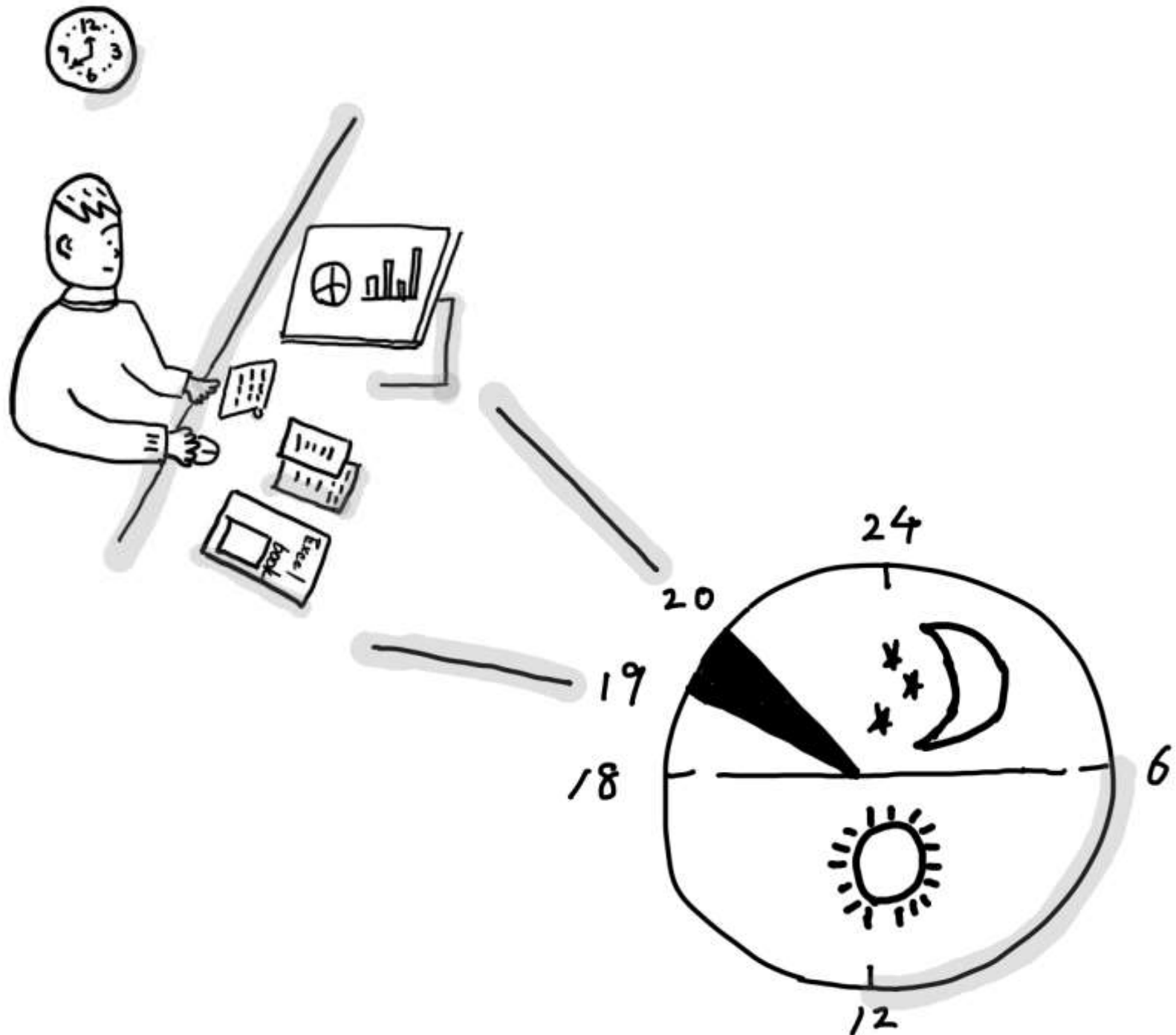
### ▼その状況において

「あれ？」 「なぜ？」 を放っておくと、いつの間にか時間  
が過ぎてそのままになってしまう。

### ▼そこで

業務中に「あれ？」 「なぜ？」 を感じたら、まずメモして  
おいて、その日のうちに自分で調査してみよう。

## A4 研究活動の減感作



日々、業務時間中や業務時間外にこつこつと研究を進めている。

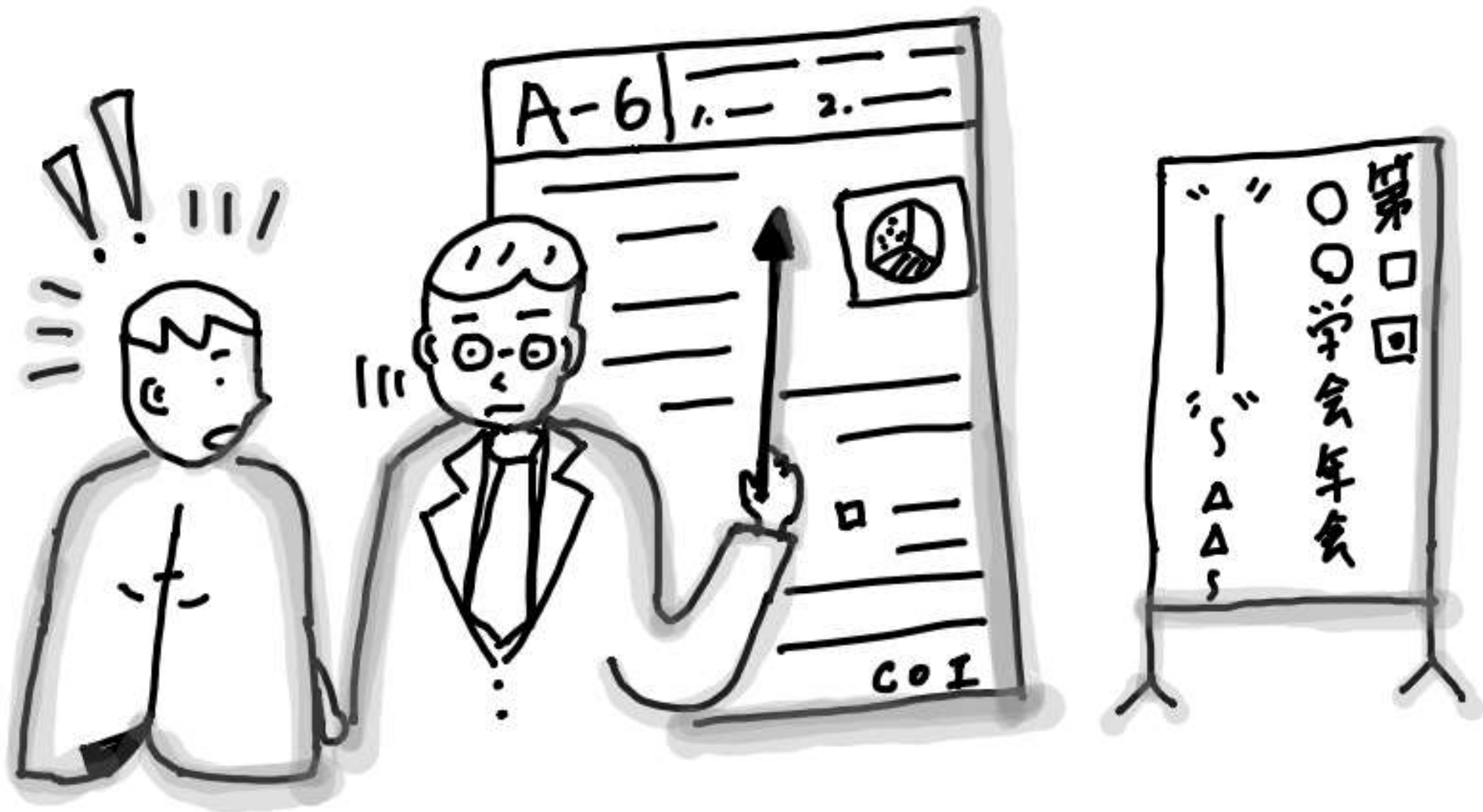
### ▼その状況において

業務に追われていたり、ライフイベントなどにより、研究に充てる時間の確保が難しいときがある。

### ▼そこで

1日のなかで必ず時間を確保して、研究をやることを身体に慣らしていこう（＝減感作）。

## A5 学会に参加することから



研究することに興味がある。  
学会発表をしてみたいと思っている。

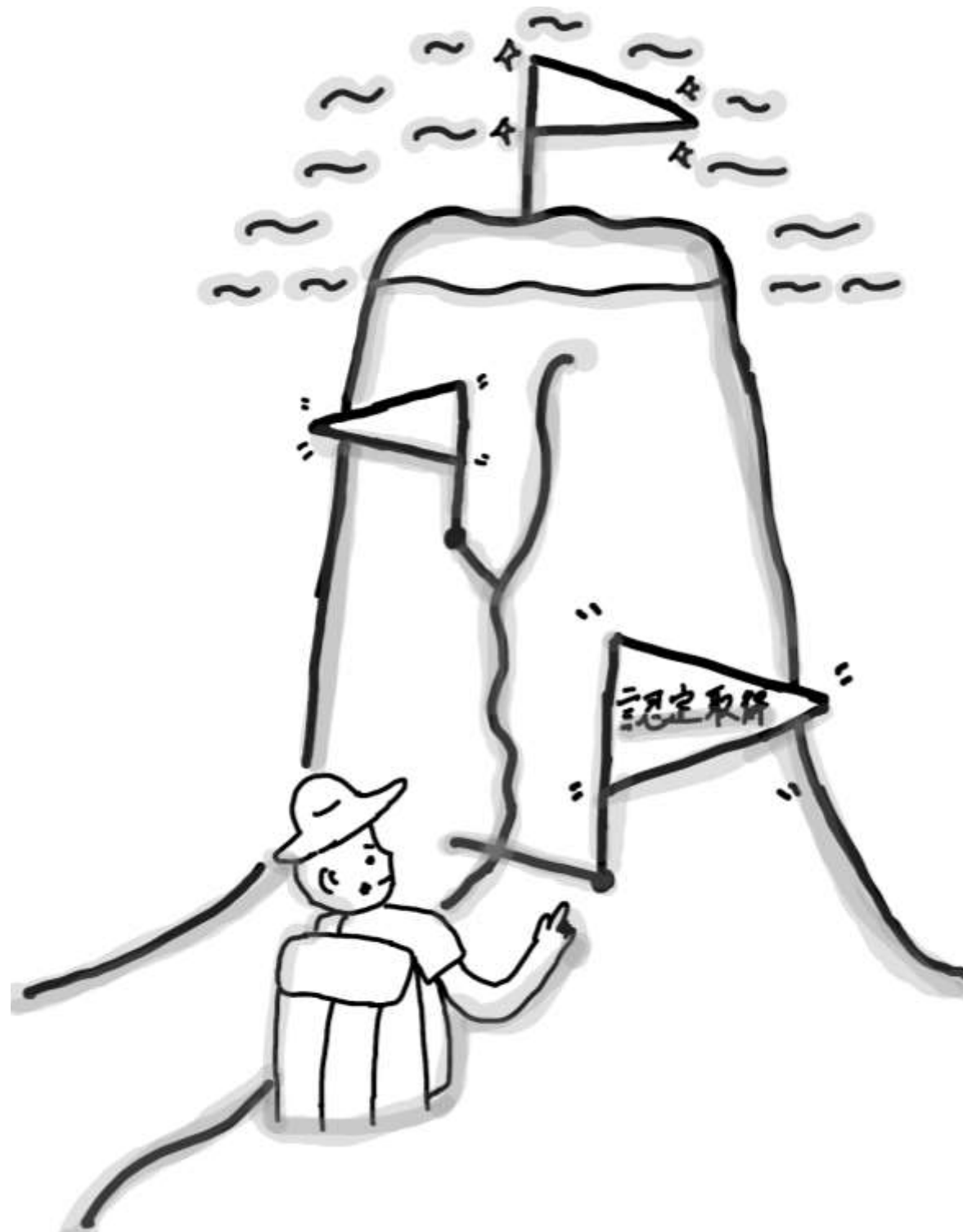
▼その状況において

研究を始めるきっかけがない。  
自分が学会発表するイメージができない。

▼そこで

まずは学会に参加して他の薬剤師の発表を聞いてみよう。

## A6 認定取得を第一歩に



研究活動に興味がある。  
学会発表をしてみたいと思っている。

### ▼その状況において

研究を始めようと思っても一歩目が踏み出せない。  
研究をするモチベーションを持ち続けられるかが不安。

### ▼そこで

認定・専門薬剤師の取得を目指すことを研究実施のきっかけにしてみよう。

## A7 逆エゴサーチ



日々、研究をこつこつと進めている。

▼その状況において

研究をするためのやる気が出ない、モチベーションが上がらないときがある。

▼そこで

PubMedなどの文献データベースで憧れの人や知り合いの人の名前を逆エゴサーチ（他人検索）してみよう。

## A8 少し背伸びする



薬剤師として何もしなくても普通に昇給したり、勤務を重ねていける。

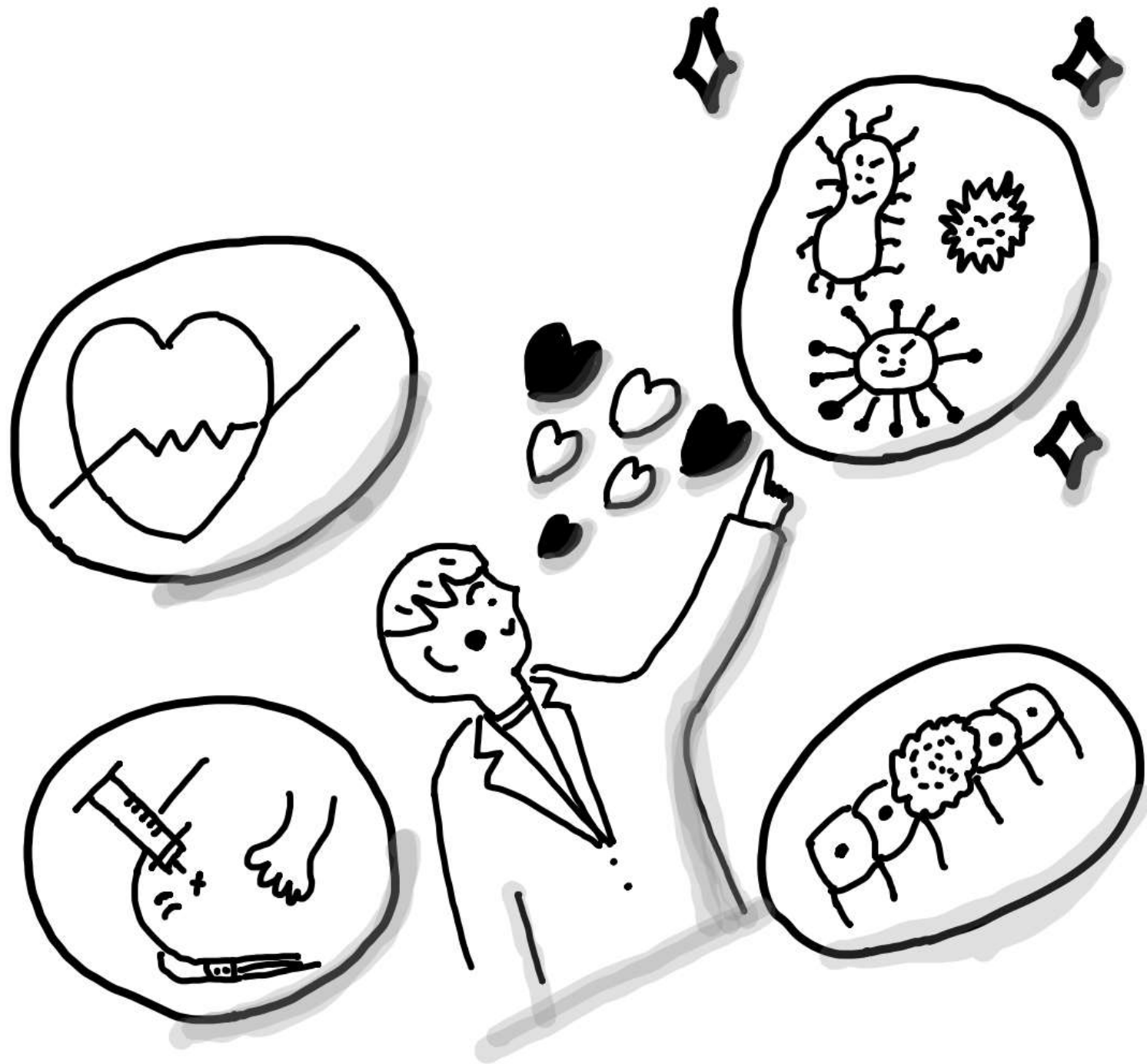
### ▼その状況において

何も行動しないと医療の進歩についていけない。また、薬剤師スキルの現状維持も実は、難しい。

### ▼そこで

少し背伸びした環境・状況に飛びこんで研究を始めてみよう。

## A9 好きこそものの上手なれ



研究をしてみたいという気持ちがある。  
上司などの周囲から研究に取り組むことを勧められている。

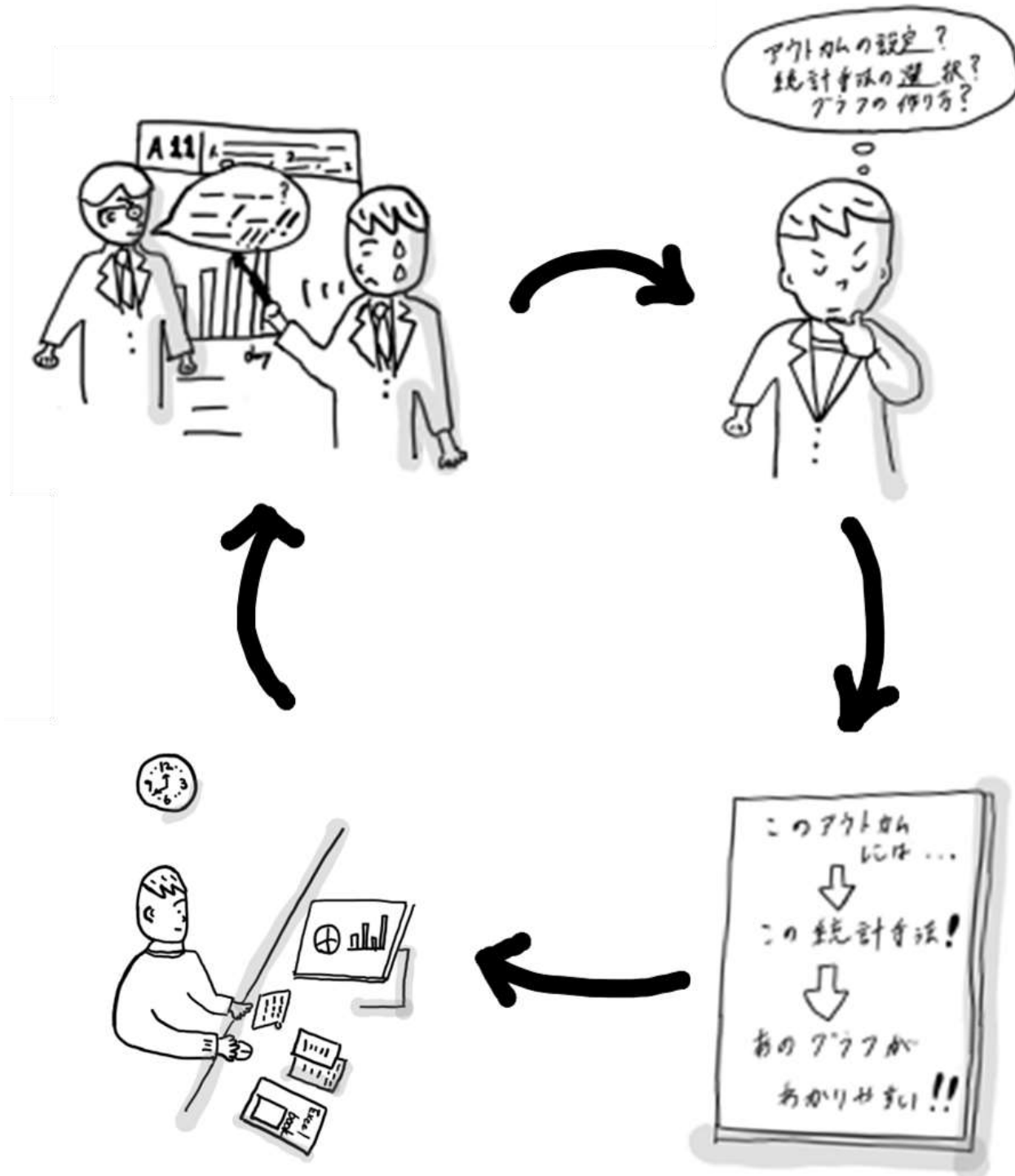
### ▼その状況において

いざ、研究をやろうとしても何から始めればいいのかわからない。やってみたい研究テーマが見つからない、わからない。

### ▼そこで

日々の業務や自己研鑽のなかで、興味がわく分野・好きな分野を探してみよう。

# A10 トライ & エラーの積み重ね



研究を進めて、その成果を発表しようとしている。

## ▼その状況において

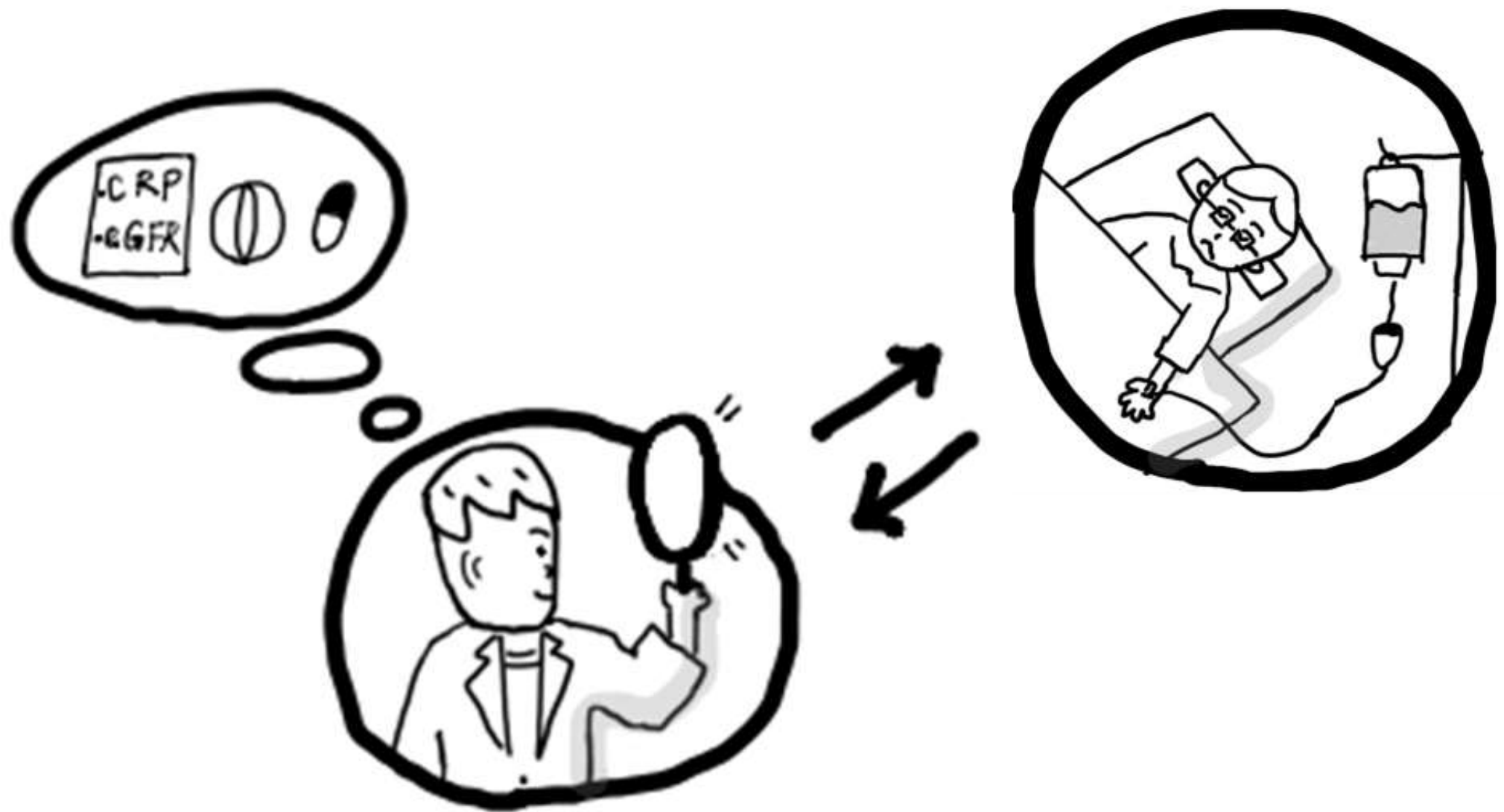
思った研究結果がでないことや、発表の場で緊張してしまったり、発表内容への質問に適切な回答できないことがある。

## ▼そこで

たとえ、上手くいかなくても研究はトライ&エラーの連続だと考えよう。



## B1 常に患者に立ち戻る



業務のなかで日々、患者と接している。

▼その状況において

何も意識せず、患者と関わっていると状態の変化や、困っていることに気づけないかもしれない。

▼そこで

目の前の患者のより良い治療目標（ゴール）を考えてみる。

## B2 プロフェッショナルと たくさん話す



日々、薬剤師業務を行うなかで患者のケアを行っている。

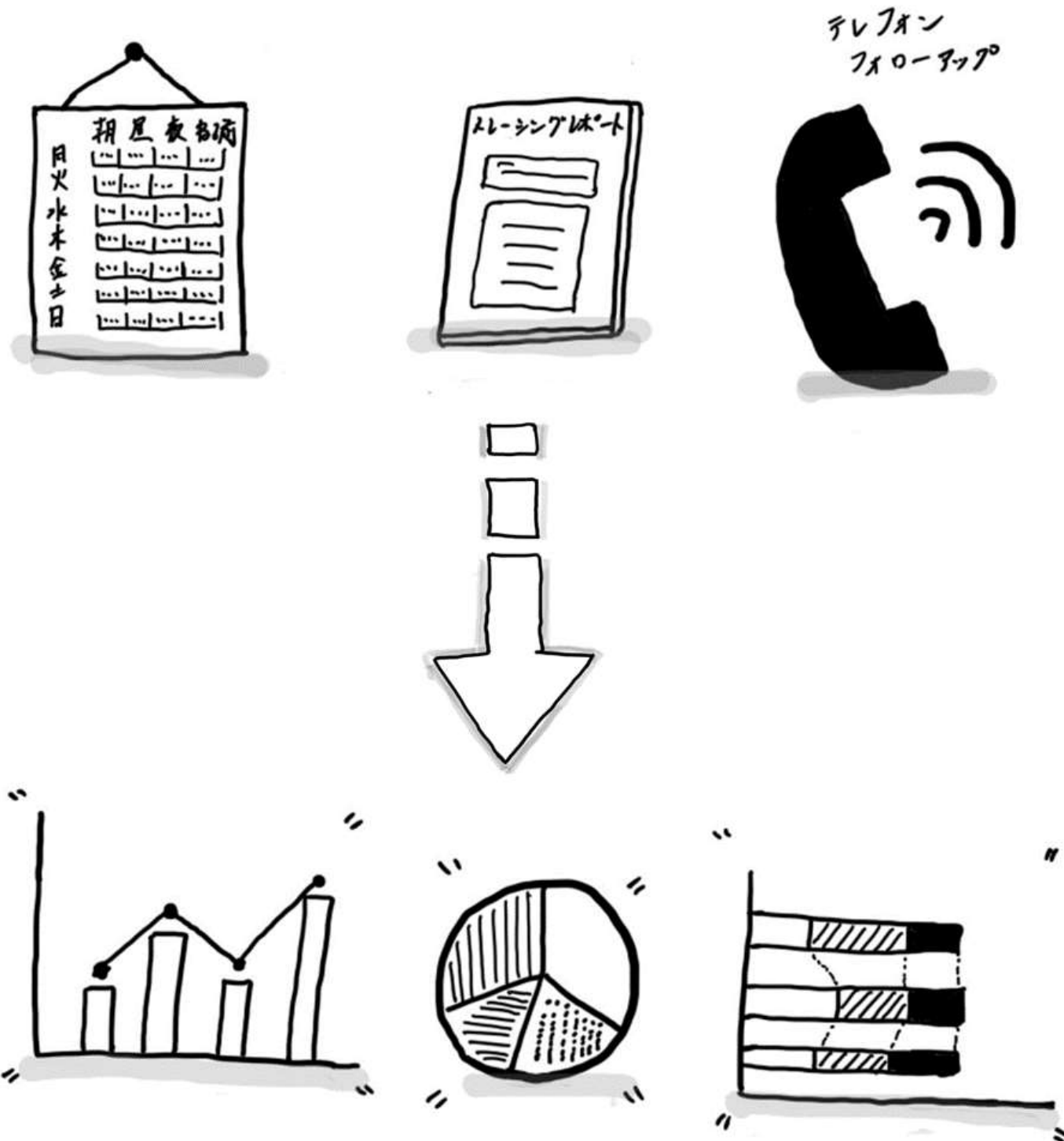
### ▼その状況において

他職種の視点による意見から患者の異変に気がつくことがある。

### ▼そこで

各分野のプロフェッショナルと患者の問題点について議論してみよう。

## B3 業務の見える化



日々、業務に取り組んでいる。

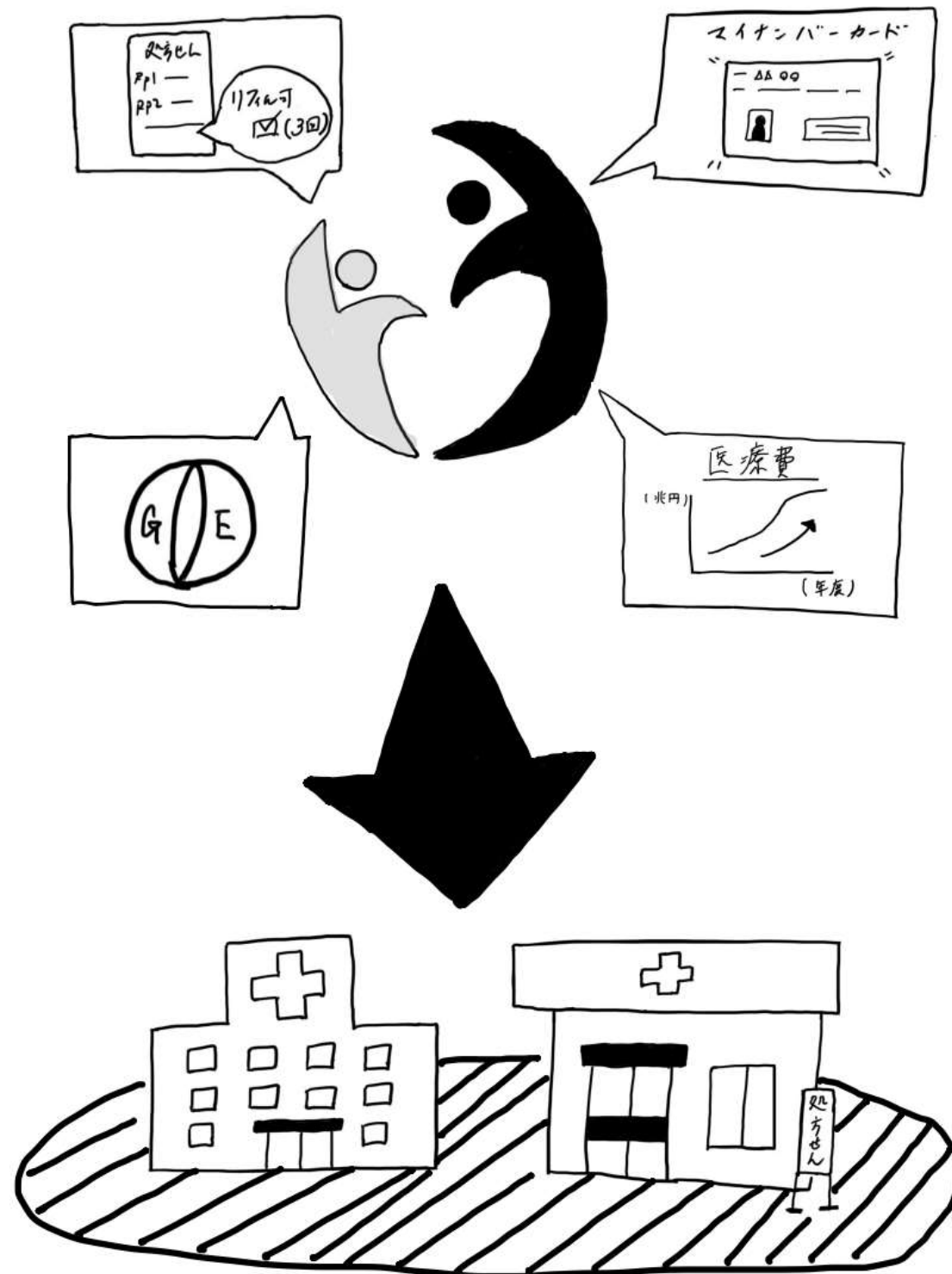
▼その状況において

意識しないと自分が患者や医療に対して、どのように寄与しているかわからないまま時間が過ぎていく。

▼そこで

日常業務の成果を可視化してみよう。

# B4トレンドを当てはめる



新しい技術の開発や診療報酬改定など、医療を取り巻く状況は日々、変化している。

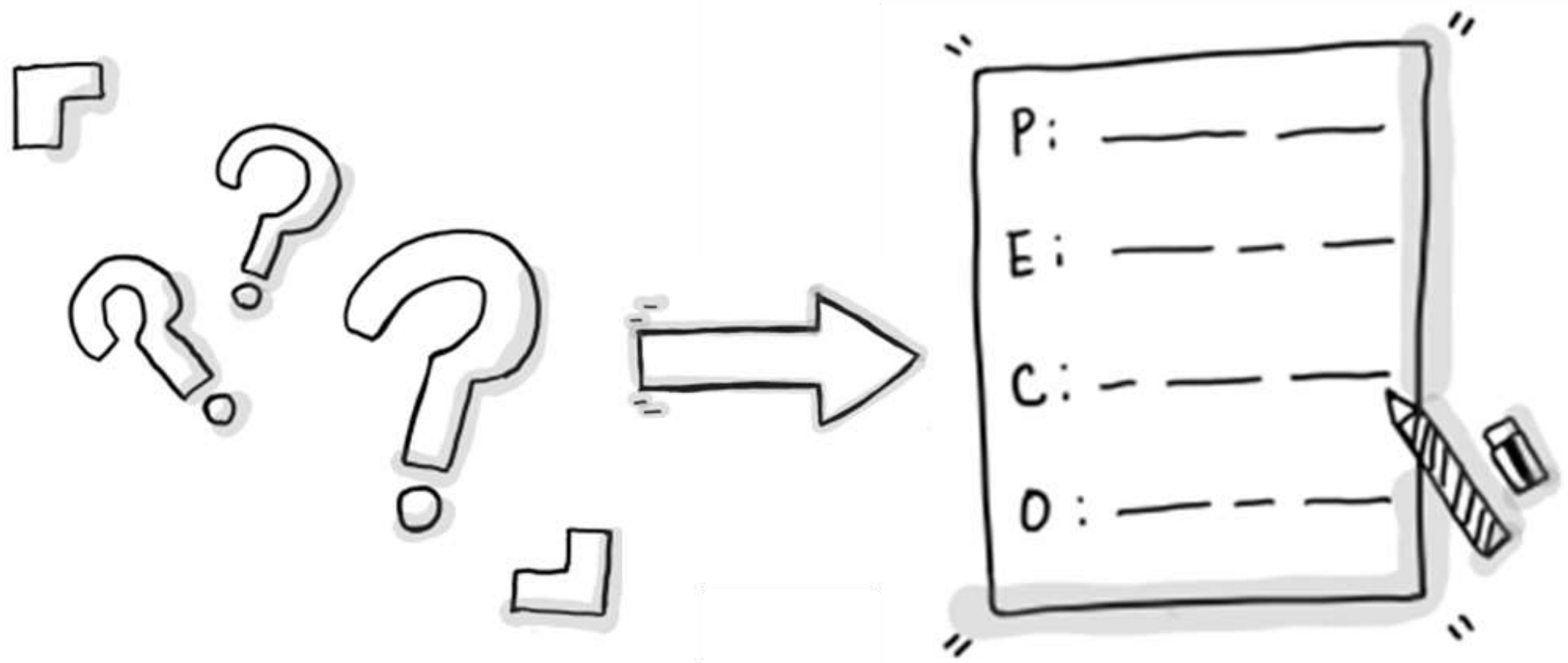
## ▼その状況において

患者や社会のニーズに応えるには、その変化に柔軟に対応する必要がある。

## ▼そこで

その時代の社会的トピックを自施設の環境や業務に当てはめてみよう。

## B5 「なぜ？」を「形」に変える



業務中に見つかった「なぜ？」について調べても解決できないことがある。

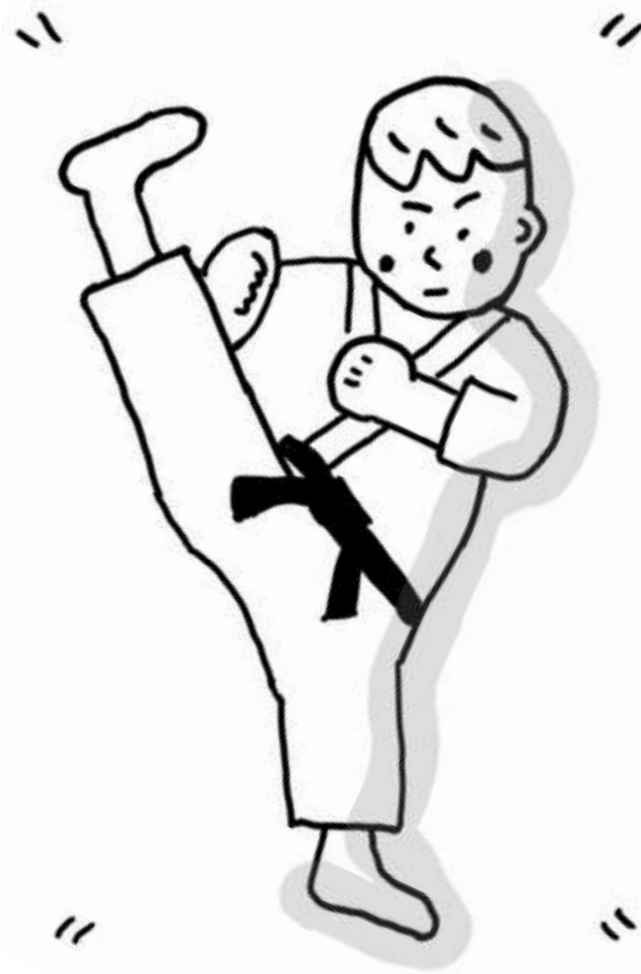
### ▼その状況において

他にも「なぜ？」と思っている人がいるかもしれないが、現状では誰も明らかにしていない可能性がある。

### ▼そこで

業務で感じた「なぜ？」（クリニカルクエスチョン）を研究的疑問（リサーチクエスチョン）に構造化してみよう。

## B6 型を知る



疑問が見つかり、リサーチクエスチョンができている。

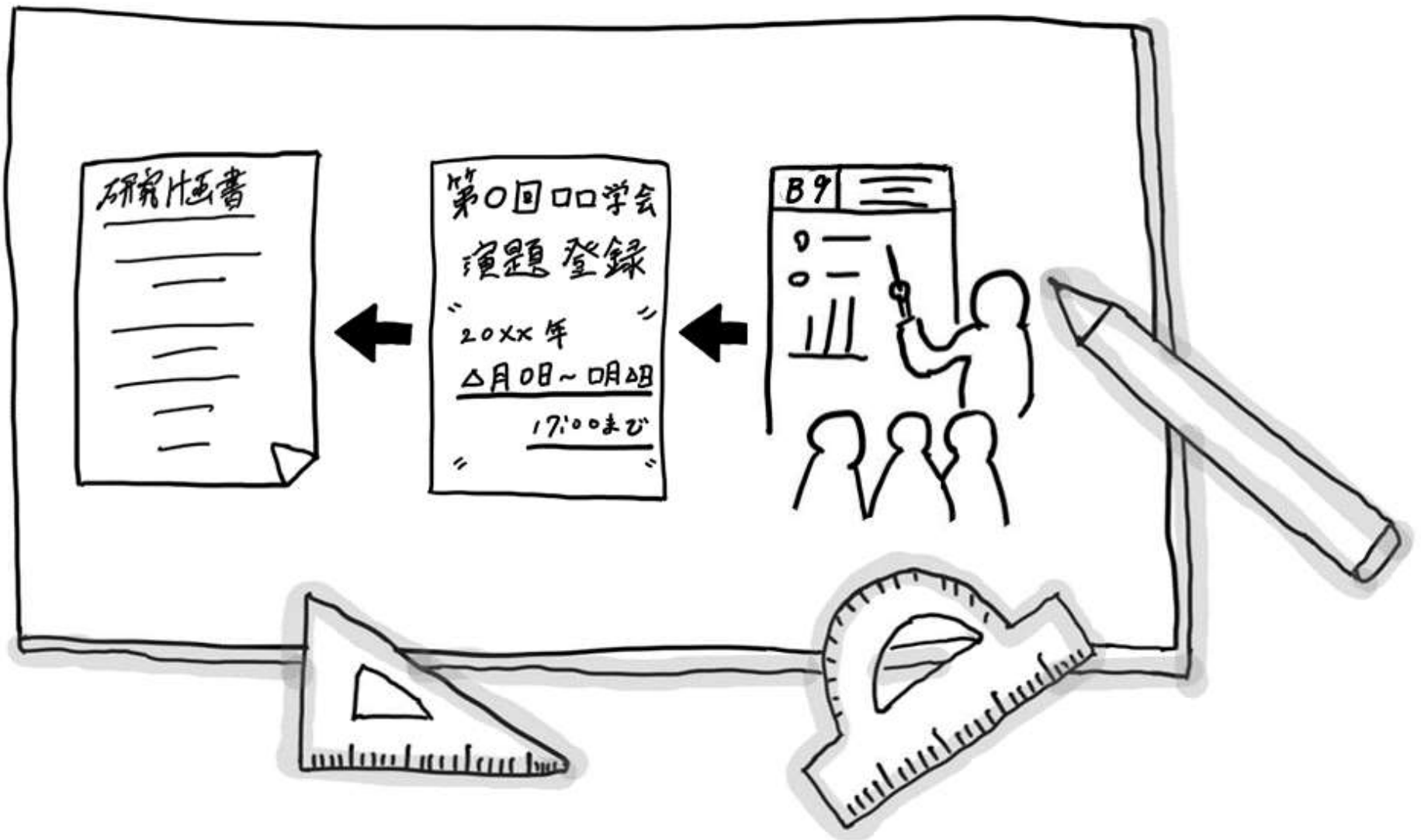
▼その状況において

疑問をどのような方法で解決すればよいかかわからない。

▼そこで

まずは研究の型（デザイン・方法）を理解しよう。

## B7 逆向き設計



研究を始めようと思っている。

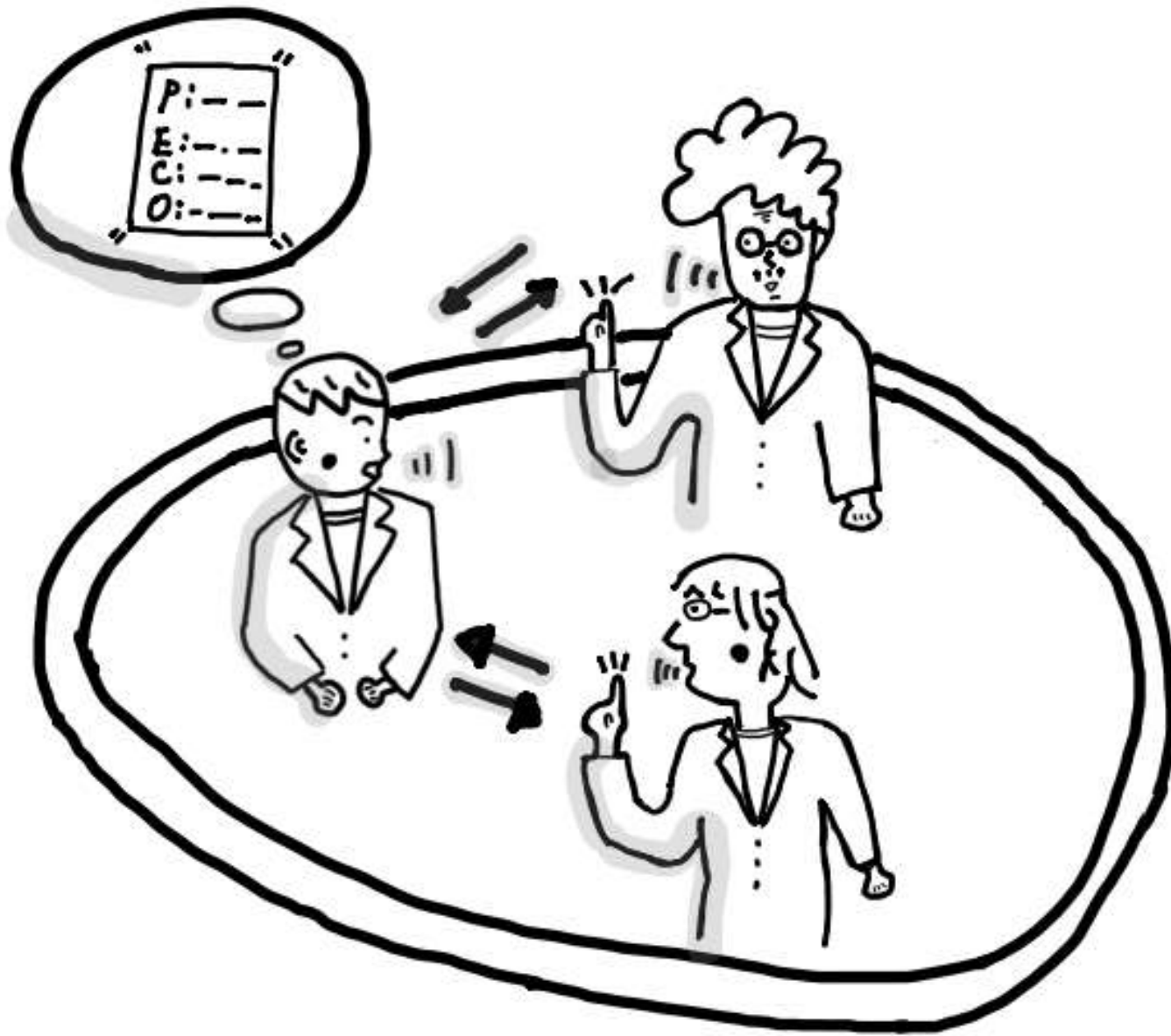
### ▼その状況において

発表方法の設定や、発表に向けたスケジュールを考えないと計画的に研究が進まないことがある。

### ▼そこで

研究を始める前に発表方法とスケジュールを決めよう（＝逆向き設計）。

# C1 相談できる環境づくり



研究してみたいテーマが見つかった。  
日々、研究を進めている。

## ▼その状況において

いざ、行動しようとするとなんから始めればいいのか、わからない。いまの職場で研究ができるか不安。  
研究を進めている中で課題にぶつかると誰かに質問・相談したくなる。

## ▼そこで

職場内の薬剤師や他職種に研究がしたいという思いや研究内容について話してみよう。相談ができる環境を自分でつくる努力をしよう。



## C2 仲間に声をかける



研究したいテーマが見つかった。

▼その状況において

自分ひとりで研究を進めるには、やらなければならないことが多すぎて、つらいと覚えることがある。

▼そこで

自分の研究に協力してもらえようように周りの人に声をかけてみよう。

## C3 感謝とフィードバック



職場・チームで研究を行った成果について自分が代表で学会発表する。業務を休んで学会に参加する。

### ▼その状況において

職場内の誰かは業務シフトにはいなければならない。研究協力者や同僚は学会に参加できないことがある。

### ▼そこで

学会に参加させてもらったことについて感謝の気持ちを伝えよう。学会で学んだこと、現地で他の参加者から、いただいた意見を共有してみよう。

## C4 他者への指導は先行投資



日々、業務や研究に追われている。

### ▼その状況において

自分の業務に精一杯なときに後輩や同僚から業務や研究の質問・相談をされると気持ちが悪くなることもある。

### ▼そこで

指導する・相談を受ける機会は将来への先行投資。自分のやっていることの手を止めて、相手の言葉に耳を傾けてみよう。

## C5 自分の言葉にしてもらう



周囲や後輩から研究のアドバイスを求められている。

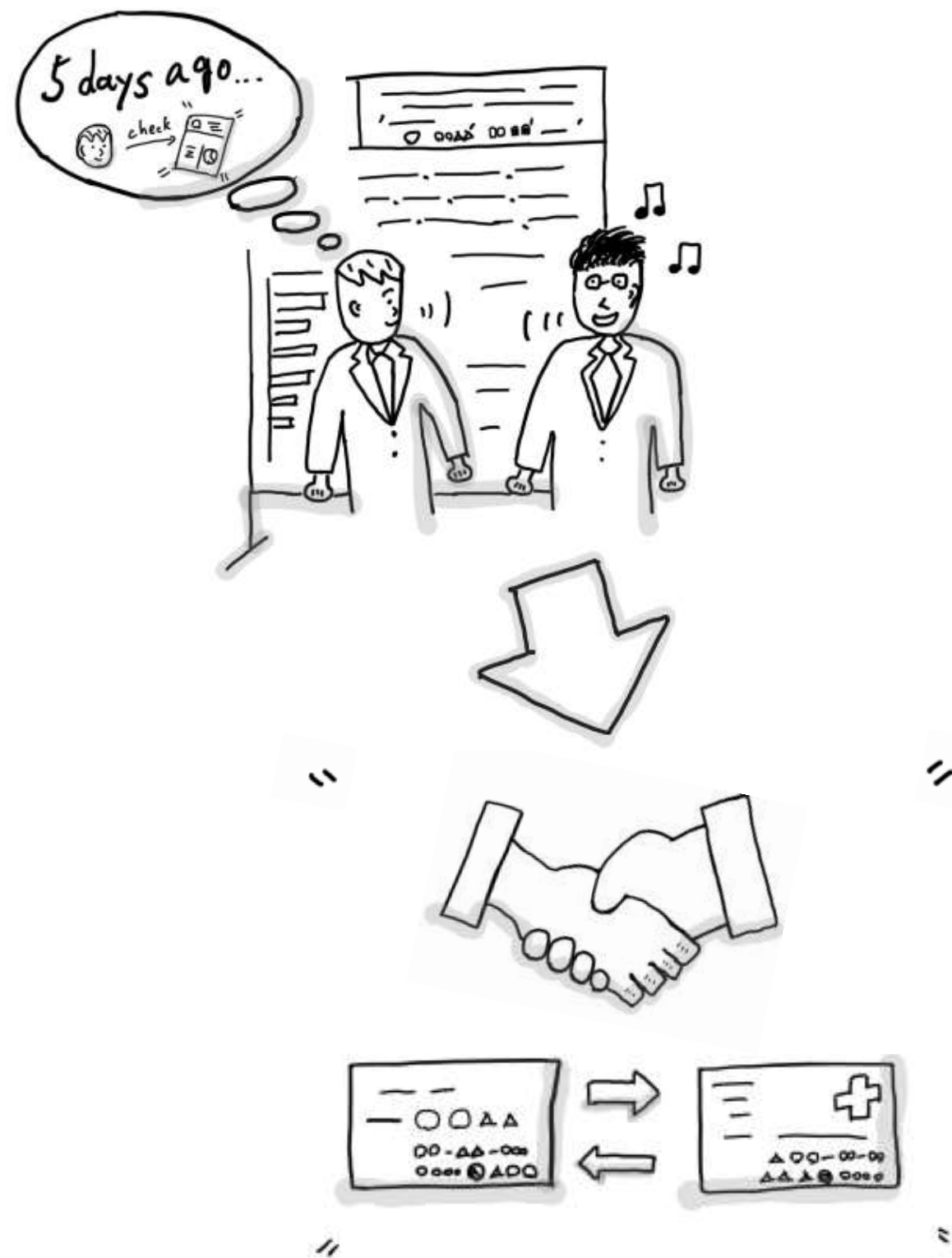
▼その状況において

教えすぎる、説明しすぎると自分の色が濃い研究になってしまう。

▼そこで

まずは相手が研究をどのように考えているか聞いてみよう。  
相手の言葉・文章を大切にすることを意識しよう。

## C6 感想を話せば、もうお友達



学会や研修会にて研究内容について意見交換ができる人に出会いたいと思っている。

### ▼その状況において

学会や研修会で発表者にいきなり質問したり、話しかけるのは緊張する。気が引ける。

### ▼そこで

会場で話しかける前に、その人が過去に発表した内容を調べてみよう。内容についての感想を伝えることを話すきっかけにしてみよう。

# C7 母港（母校）をつくる



日々、研究を進めている。

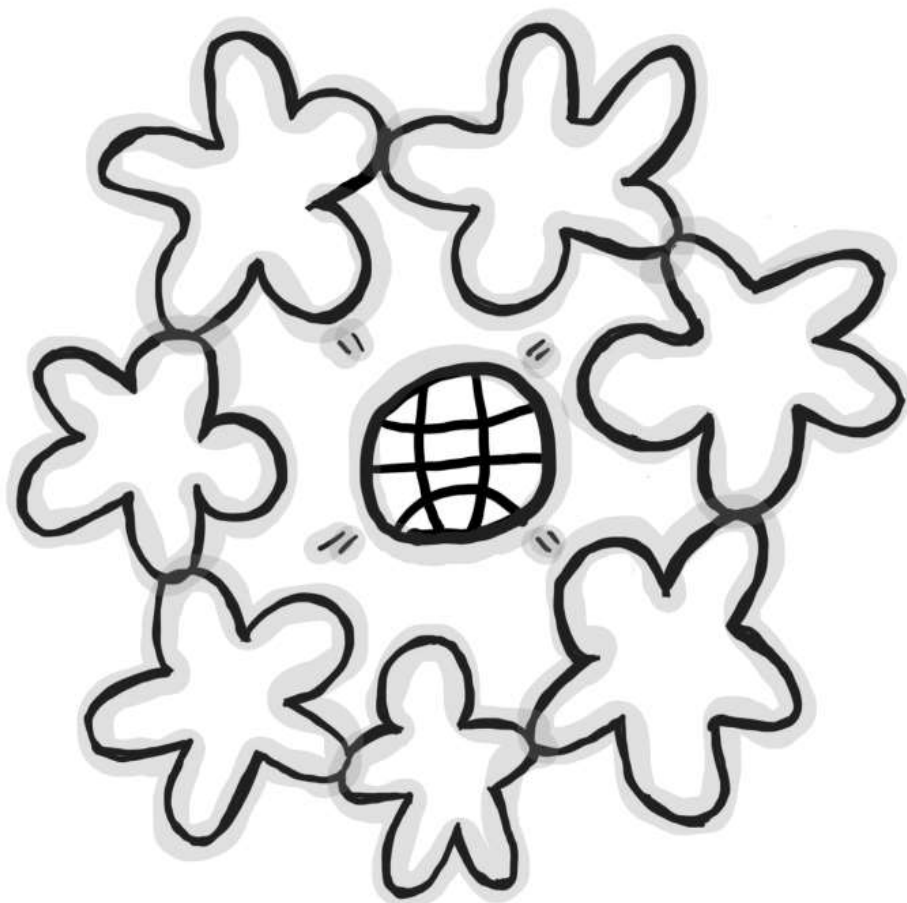
## ▼その状況において

研究デザインや統計解析などの学術的な部分について周囲に聞くことができなくて悩むことがある。

## ▼そこで

研究の相談するために立ち寄ることができる母港（母校）をつくってみよう。

## C8 ローカルネットワーク に飛び込む



自分の施設や地域を対象とした研究をしたいと思っている。

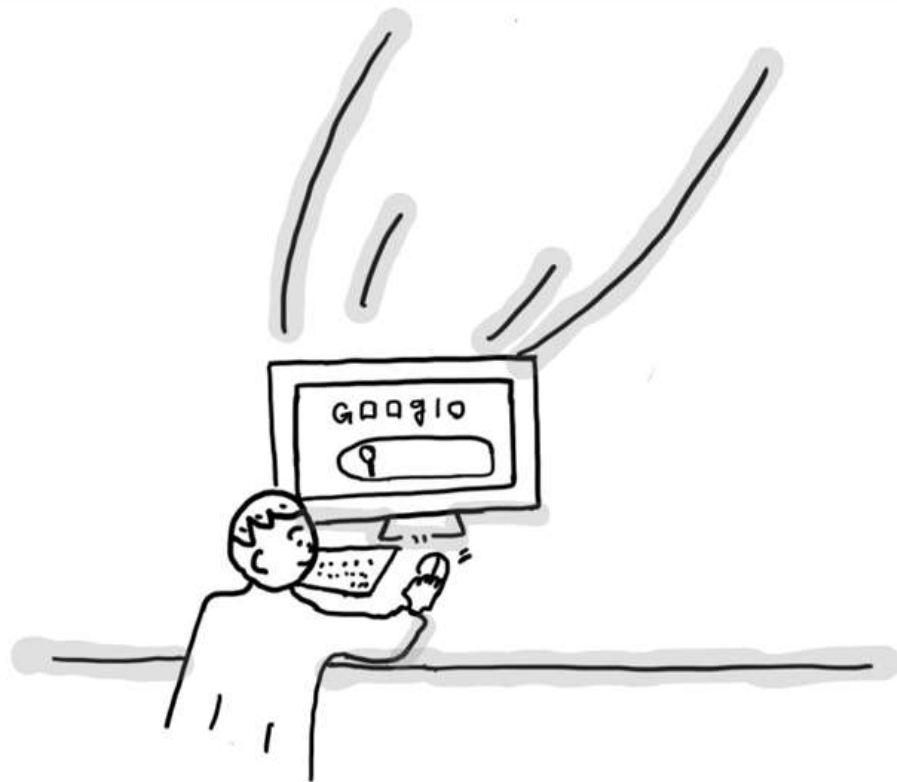
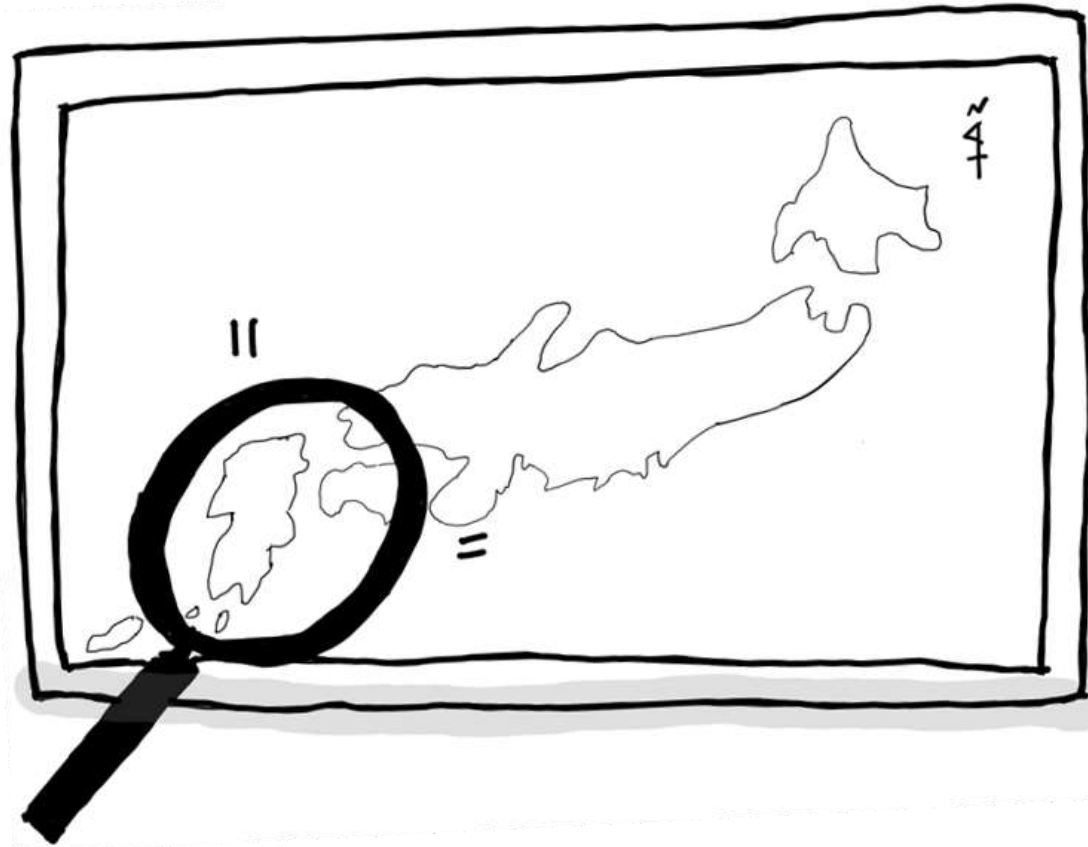
### ▼その状況において

自分ひとりや自施設だけでは十分なサンプル数を集められなかったり、研究を進めるためのマンパワーの不足が課題となることがある。

### ▼そこで

地域の研修会に参加して他施設の薬剤師と交流してみよう。

## C9 全国規模でコミュニティ探し



研究に少し興味がある。研究を始めてみたい。  
研究に取り組んでいる。

### ▼その状況において

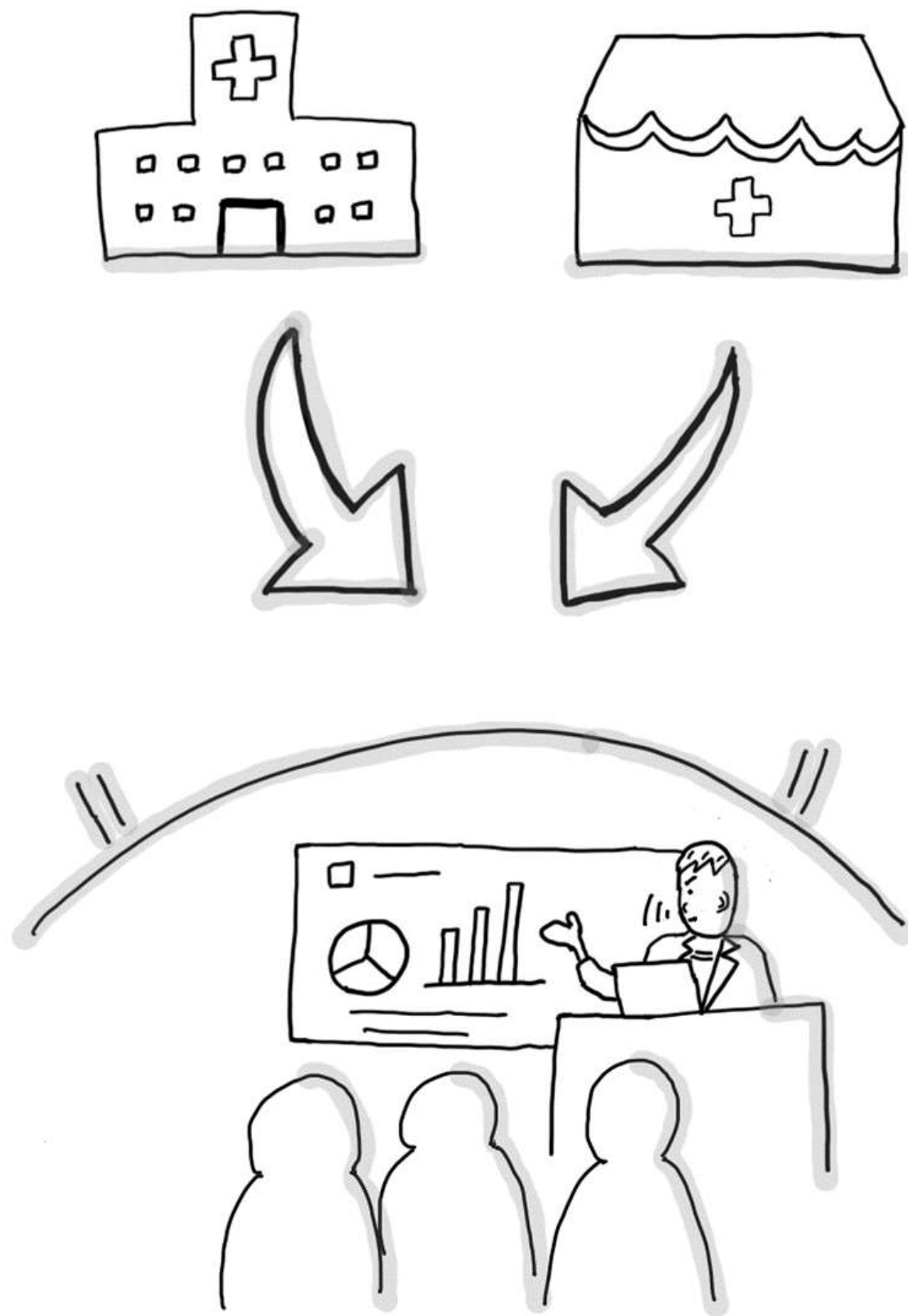
職場などの身近な環境・コミュニティでは相談できる人が  
いないことがある。

### ▼そこで

職場を飛び越え、県内・県外問わず、全国規模でコミュニ  
ティを探してみよう。



# D1 小さな発表機会にトライ



学会発表してみたいと少し思っている。  
上司などの周囲から学会発表することを勧められている。

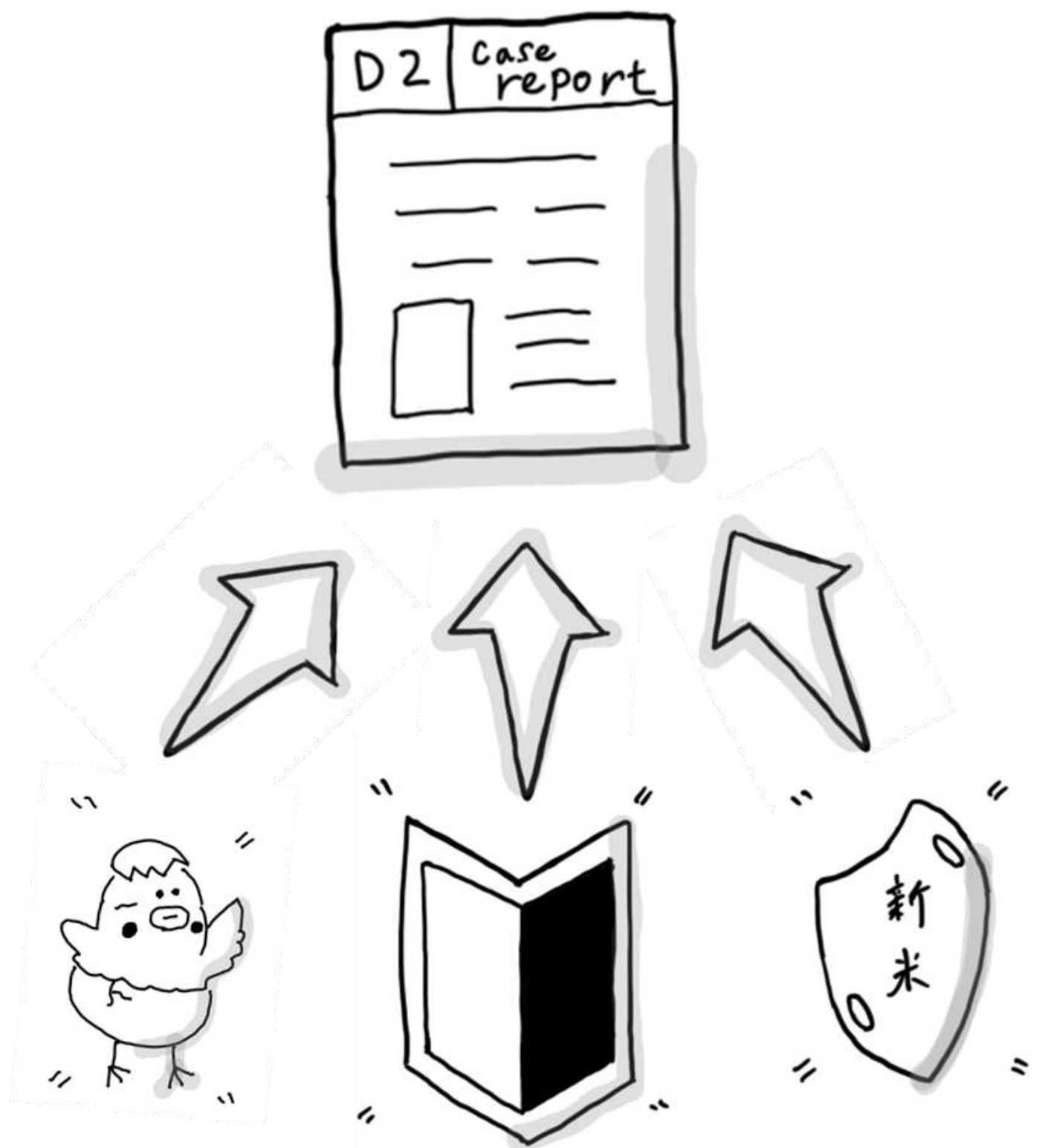
## ▼その状況において

最初からいきなり全国学会で発表することは気が引ける。

## ▼そこで

発表形式は全国学会も地方規模の学会もだいたい同じ。  
学会発表までの準備やプレゼンを経験するために、まずは  
小さな発表機会にトライしてみよう。

## D2 まずは症例発表



患者と接していて疑問点が見つかった。  
業務で新たな取り組みを行った。

### ▼その状況において

見つけた疑問点や新たな取り組みについて前例を調べたが、  
どこにも発表されていない。

### ▼そこで

症例報告の様式でまとめてみよう。  
業務改善報告として取り組みを導入した前後で比較してみよう。  
そして、これらを学会で発表してみよう。

## D3 ボールは自分から投げる



がんばって研究成果をまとめ、学会会場にて発表を行う。

### ▼その状況において

参加者からの意見・質問がないと発表内容についての客観的評価を得られないまま発表時間が終わる。

### ▼そこで

発表を聞きに来てくれた参加者には自分から積極的に話しかけ、発表内容についての意見・感想をもらうおう。